

# 復興支援フォーラムニュース No.36

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html> )

<事務連絡先 今野順夫([tkonno67@gmail.com](mailto:tkonno67@gmail.com)) 中井勝己(024-548-8313)>

## 放射線被曝とその影響について

齋藤 紀

福島第一原発事故をうけて、放射線の知識とはそれまでまったく無関係に生活してきた多くの住民が、日常生活のなかにはいつてきた放射線について知らざるを得なくなりました。しかしもっとも苦慮したのは安全なのかどうかについて科学者の見解がわかれ、翻弄される日々がつづいたことでした。極端には福島県からの避難が早急に急がれるとする考えが、とくに「子どもを守れ」の声とともに打ち出されたことでした。そのような考えを後押ししたのがチェルノブイリ事故被災の情報でした。しかし2年間が経過し福島における線量が具体的に明らかになり、また健康リスクがけっして線量に限定しているものでないこともわかってきました。

この2年間、講演を通じて多くの市民と対話をしてきました。それらの経験も踏まえてお話しします。

1. 明らかになった線量
2. 放射線とDNA損傷
3. 高自然放射線地域と染色体異常
4. 100mSv問題
5. 土壌線量と内部被曝線量
6. 放射性ヨウ素と甲状腺がん
7. チェルノブイリ被災者の知見
8. まとめ

第33回ふくしま復興支援フォーラム（2013年3月15日）＜「『新生ふくしま』の原動力としての『社会的企業』の意義と可能性／坪田哲司氏＞で、寄せられたご意見等。

★ふくしまの復興・再生に社会的企業の必要性を理解できた。（R.N）

★社会的企業が地性的なものとして発展することが、復興の新しい形として定着するとすれば、原発からの脱却にも関連する重要な視点だと思います。（O.S）

★「社会的企業」という視点は、どういう内容なのだろうと大変関心がありました。まだ理解は不十分ですが、新しい視点を知ることができました。（Y.A）

★「『恩送り』の視点を持ちましょう」という発言に感銘を受けた。やり続けるということは、今後考えなければと思います。原発廃炉まで40年かかりますから。（Y.I）

★「社会的企業」は、もっと深刻に深める必要があると思います。理論的にも実践的にも。声が聴きにくく、全部聞き取ることができなかったのは残念でした。たんにボランティアの長期化とだけではなさそうですよね。（S.M）

★3.11との関連不明。中途半端で具体性の貧しい内容であった。（抽象化もされていない。）このような行為が、市場との関係があり、社会性を持っているようだから、復興はあるのかもしれない。プロフェッション（行政。企業従事者、研究者）と被災者の連携が語られないのは分からない。学生向けの講義のようだった。なら多様で表層をなぞるのは好い。（T.S）

★「社会的企業」の意味とその役割について、理解することができた。また、その組織を支える人材の育成の重要性と継続できる仕組みづくりが必須であることが解りました。（K.F）

★社会的課題をビジネス手法で解決する。今回の企業支援は、その入口のように思えた。こうした支援がネットワークされて継続する事業になることが、今後の展開・シナリオにもつながるものと感じた。（Y.T）

★震災復旧・復興の過程で、行政の援助もあり、社会的企業が大きな役割と意義を持つことを理解できました。将来、復興していく経済分野全体の中で、社会的企業がいかなるシェアを占め、役割を果たすのか、関心があった。（T.K）

=====  
【予告】 第35回ふくしま復興支援フォーラム（2013年4月11日（木） 18時30分～）

テーマ 「放射能影響予測システム SPEEDI とは？ なぜ機能しなかったのか？

ありうる次の事故で有効活用するには？」

報告者 佐藤康雄氏（元気象庁気象研究所環境・応用気象研究部長）

会場 福島市アクティブシニアセンター「AOZ（アオウゼ）」 大活動室1

（MAX ふくしま4F／福島市曾根田町1-18）

=====